

研究タイトル:

## 災害復興における被災前の継承について

氏名:	磯村和樹 / ISOMURA Kazuki	E-mail:	isomurak@akita-nct.ac.jp
職名:	講師	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本建築学会、日本災害復興学会、農村計画学会、地域安全学会など		
キーワード:	被災前の伝承、復興まちづくり、ワークショップ、事前復興・防災まちづくり		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等により喪失した空間の伝承・アーカイブに関する情報提供</li> <li>・復興・事前復興・防災まちづくりに関する情報提供</li> <li>・上記に関する調査・分析・提案</li> </ul>		



研究内容: 被災地における被災前の空間等の伝承に関する研究、被災前の特性を継承する復興研究

### 被災地における被災前の空間等の伝承に関する研究

災害等により地域空間を構成していた土木構造物や建築物等が喪失することがある。それは地域の人々が慣れ親しんだ「ふるさと」の風景の喪失であり、人々の精神面に影響を及ぼす。その際、喪失前の被災前の地域空間を記録し伝えていくことで人々の心のケア等に貢献できることがある。

主に津波によって膨大な地域空間が喪失した東日本大震災の被災地で、上記のような趣旨で実施された取り組みに、「失われた街」模型復元プロジェクト(<https://losthomes.jp>)がある。建築学分野でよく用いられるスチレンペーパー(発泡スチロール)等を用いた模型製作技術を活かし、津波等で喪失した地域空間を復元したジオラマ模型を製作し、住民等に公開し、懐かしんでもらい、人々の心のケア等を図る取り組みである。

これまで、この活動の適切な実施手法やその効果についての検証を行った。被災地数十ヶ所で上記の取り組みを実施した結果、平均で対象地域の約1/6、400名ほどの来場者があり、被災地において大きなニーズがある取り組みであることや、一方で一部の来場者にネガティブな影響を与えており配慮が必要であることなどを示した。

現在、製作された模型は、被災地各地の震災伝承等に資する物であるとして、各地の伝承施設や、公共施設などに展示されている。今後は長期的な被災前の伝承の効果や課題について検証していく。



製作された被災地の復元模型の例  
(撮影: 太田拓実)



復元模型を見る人々の様子

### 被災前の特性を継承する復興研究

上記の活動で、人々が被災前を懐かしみ思い出を語る場づくりを行う中で、東日本大震災被災地の被災前の生活に関する証言を大量に記録してきた。その証言を元に、被災前の被災地の特性(生活・文化等)が被災後までにどう変化したか分析を進めている。右図は現在の防潮堤建設エリアが被災前は遊泳等の余暇活動の場であったことを示した図である。被災前の生活復興に関する研究を続けたい。

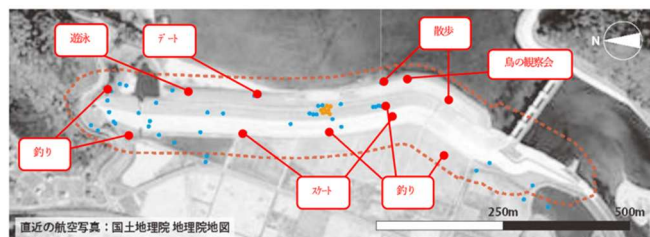


図2 鶴住居地区の防潮堤付近の被災前の記憶データに記録があった「余暇活動」

提供可能な設備・機器: (公開記事の有無を付記願います)

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	